

第 2 章

現状

第2章 現状

2-1 大野市の現状

- 大野市の位置や自然特性など立地特性や、人口構造や通勤通学流動、産業などの社会経済状況など、大野市の現状を幅広く整理します。

2-1-1 位置

- 大野市は、福井県の東部に位置し、北は勝山市と石川県白山市に、東と南は岐阜県高山市や郡上市、関市、本巣市、揖斐川町に、西は福井市と池田町に接しています。
- 交通は、国道157号が南北に、国道158号が東西に走り、東は東海北陸自動車道、西は北陸自動車道に連絡しています。鉄道はJR越美北線（九頭竜線）が国道158号にほぼ平行して走り、越前花堂駅でJR北陸本線と接続しています。

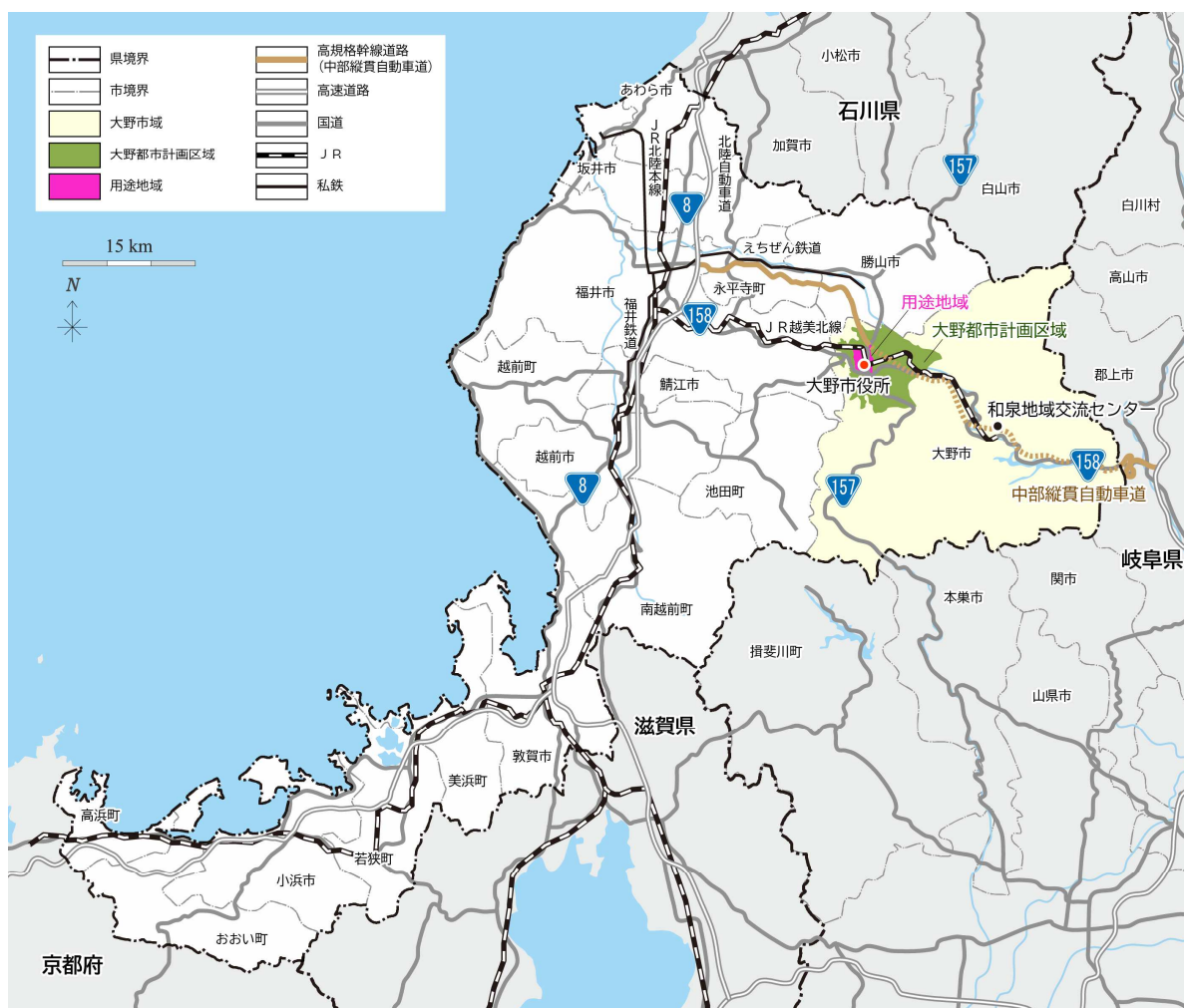


図 大野市の位置

2-1-2 自然特性

- 市の面積は、福井県内最大の 872.43km² であり、そのうち約 87% を森林が占めています。
- 市域は大野盆地とそれを囲む山々などから構成されており、大野盆地は直径約 10km の円形状で、白山の支脈に囲まれています。また、日本百名山の一つである荒島岳をはじめ、赤兎山、経ヶ岳、銀杏峰などがそびえています。
- 市域にはさまざまな地層が広く分布するなど地形・地質的にも資源が豊富で、国内外から注目されています。
- 岐阜県境を源とする九頭竜川と、その支流の真名川、清滝川、赤根川は、大野盆地を南から北へ流れています。これらの河川は、上流で九頭竜峡や真名峡などの峡谷美をつくり、下流域では大野盆地を潤しています。
- 名水百選の「御清水」をはじめ多くの湧き水があることから国土交通省の「水の郷(さと)百選」に選ばれるなど豊かな自然に恵まれています。
- 気候は、県内の他地域よりも気温が低く冬には積雪があり、特別豪雪地帯の指定を受けています。
- 地形と気候の特性から 10 月から 4 月には、早朝に盆地全体を広く雲が覆う日があり、亀山と越前大野城が雲海の上に浮かぶ幻想的な眺望景観が現れます。
また、環境省が実施した全国星空継続観察において、2 年連続（2004 年（平成 16 年）大矢戸区、2005 年（平成 17 年）南六呂師区）で「日本一美しい星空」に選ばれています。

2-1-3 歴史

(1) 市の歴史

- 天正 3 年（1575 年）、織田信長の部将金森長近は、信長から大野を与えられ、程なく亀山に城郭を、その東麓に城下町を造りはじめました。城下町は、碁盤目状（短冊状）に区画され、その外側には寺社が配されました。このとき整備された街並みが、今日の中心市街地の骨格となっています。
- 幕末の大野藩は、藩主の土井利忠により財政再建を主とした藩政改革が行われ、全国各地に藩営の取次店「大野屋」を置いたほか、大野屋の商品輸送などのために西洋式帆船の「大野丸」を運航させるなど、進取の気象により繁栄の礎を築きました。
- 明治 4 年（1871 年）の廃藩置県後、明治 14 年（1881 年）から福井県に属し、国道 157 号・158 号と J R 越美北線の開通などに伴って奥越地域の中心都市として発展してきました。平成 17 年（2005 年）11 月 7 日に和泉村を編入合併し、現在に至っています。

(2) 市街地の変遷

〈昭和 25 年頃（1950 年頃）の市街地〉

- 城下町の北端に京福電鉄大野勝山線の大野三番駅、亀山東側に役場などの公共施設が配置され、この頃の市街地は、城下町を中心とした非常にコンパクトなものでした。

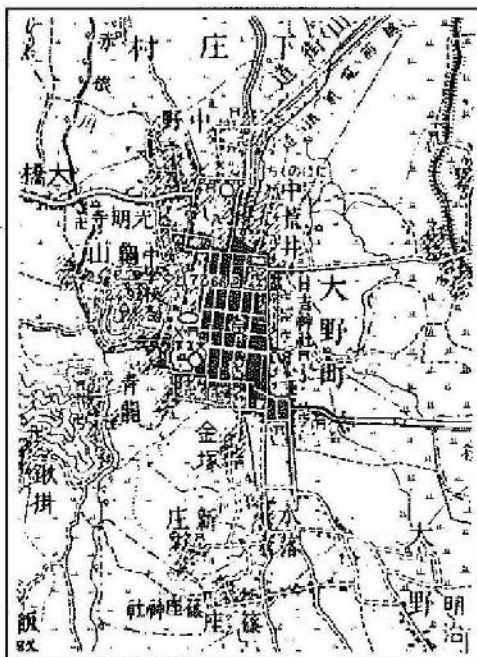
〈昭和 45 年頃（1970 年頃）の市街地〉

- 車社会の到来や高度経済成長の影響を受け、市街地は南部と東部に拡大しました。特に、J R 越前大野駅東区域の開発に伴い、亀山のふもとにあった公共施設の郊外移転が進み、現在の文化会館などが新築されました。これにより、徒歩でどこでも行くことができたコンパクトな市街地としての特性が失われ始めました。

〈現在の市街地〉

- 現在の市街地は、昭和45年頃（1970年頃）よりさらに拡大しました。東側および南側へと面的に市街地が拡大し、また、バイパスなどの整備により市街地の外周に交通が移り、その沿道では駐車場を備えた店舗の立地が進んでいます。

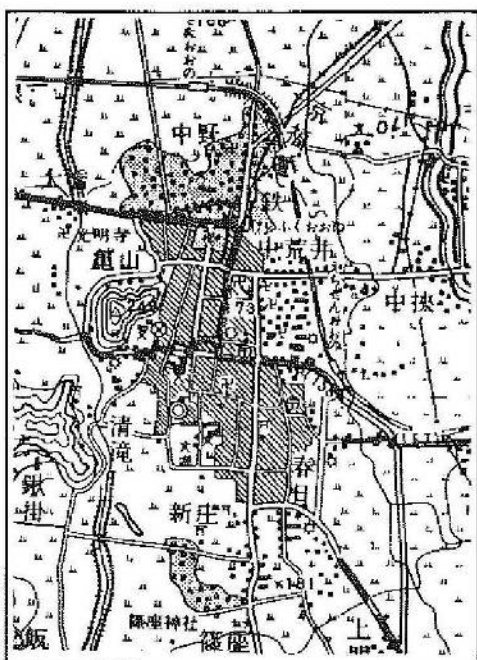
<明治42年（1909年）>



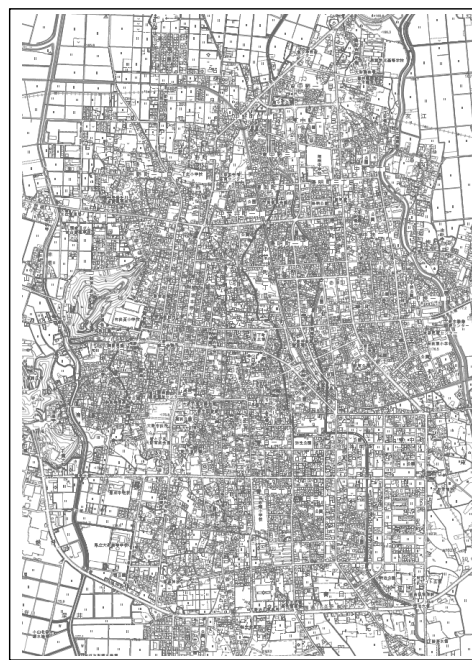
<昭和25年（1950年）>



<昭和45年（1970年）>



<現在（平成29年（2017年））>



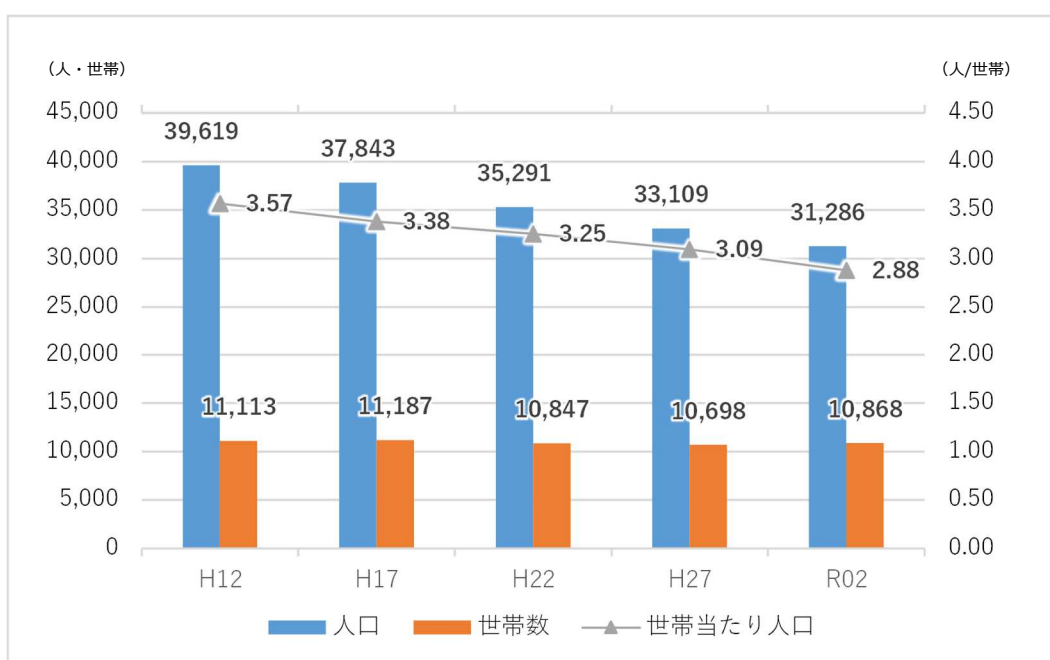
出典：日本図誌体系（明治42年～昭和45年（1909年～1970年））、1万分の1地形図（平成29年（2017年））

図 大野市街地の変遷

2-1-4 人口構造

- 国勢調査によると、令和2年（2020年）時点の人口は31,286人であり、平成12年（2000年）から20年間で21.0%（8,333人）減少しています。
- 国勢調査によると、世帯数は平成17年（2005年）の11,187世帯をピークに減少に転じ、平成27年（2015年）には10,698世帯にまで減りましたが、令和2年（2020年）には10,868世帯となり170世帯回復しました。

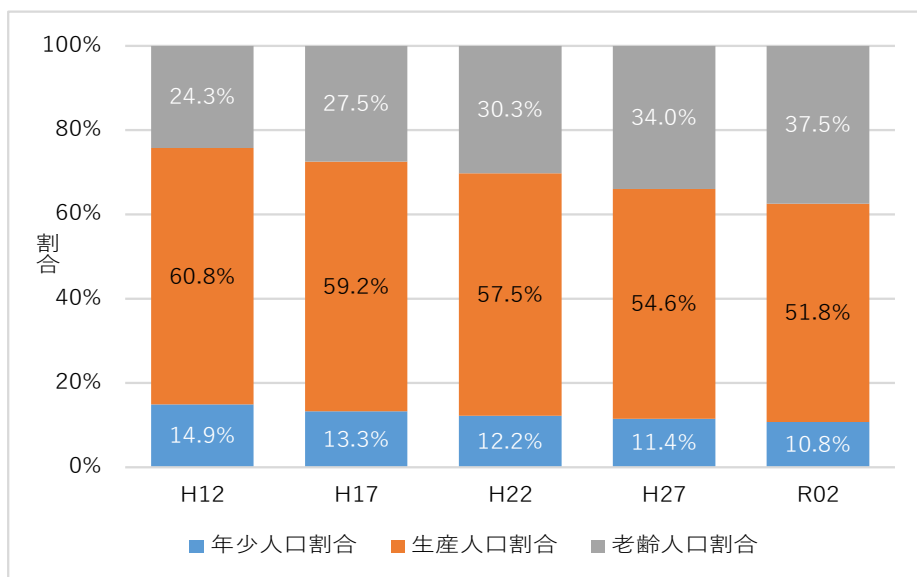
【国勢調査－人口・世帯数の推移】



第2章 現状

- 令和2年（2020年）の65歳以上人口の割合は37.5%、15歳未満人口の割合は10.8%となっており、少子化・高齢化が急速に進んでいます。
- 高齢者のみの世帯は増加傾向にあり、高齢夫婦世帯（14.8%）と高齢者単身世帯（12.0%）を合わせると一般世帯の4分の1を超える水準になります。

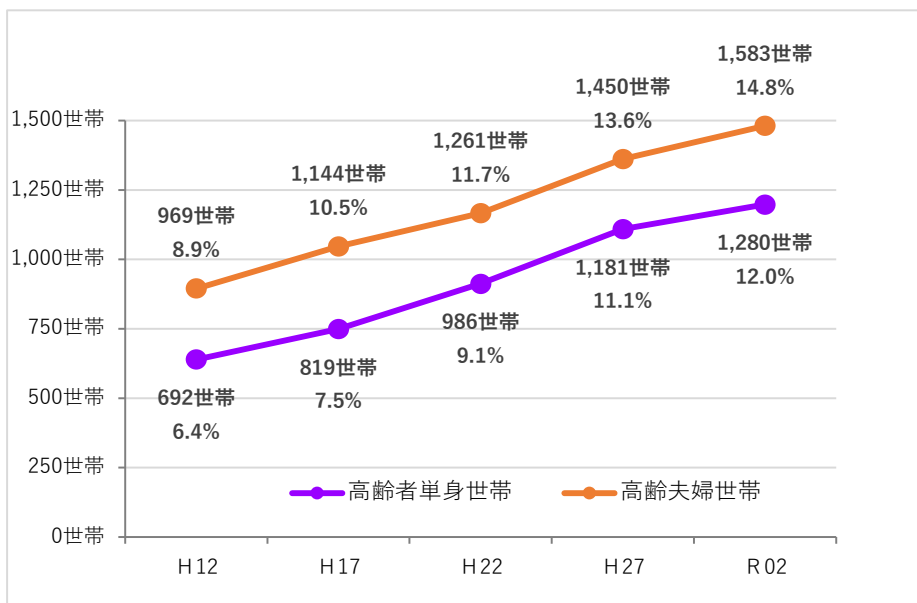
【国勢調査－年齢3区分割合の推移】



（注）四捨五入の関係および年齢不詳者数の関係で必ずしも合計が100%にならない。

出典：国勢調査

【高齢者のみの世帯数の推移】



高齢者単身世帯：65歳以上の単身者のみの一般世帯

高齢夫婦世帯：夫65歳以上、妻60歳以上のみの一般世帯

一般世帯：病院、その他施設入所世帯を除く世帯

割合（%）は、それぞれ一般世帯に対する割合

出典：国勢調査

2-1-5 通勤通学流動

- 令和2年(2020年)の通勤通学流動を見ると、大野市内に通勤通学している市民は75.1%、他市町へ通勤通学している市民は24.9%となっています。
- 流出先を見ると、福井市が12.4%と最も多く、通勤通学で流出している人口のほぼ半数を占めています。次いで勝山市が7.7%、3番目は坂井市で1.0%となっています。
- 経済圏や生活圏の広域化が進んでおり、利便性の向上や地域経済の活性化を図るためには、福井市への移動の利便性を高めることが重要と考えられます。

【表 通勤通学流動】

就業者・通学者総数	大野市内に通勤・通学	他市町			
		流出先第1位	流出先第2位	流出先第3位	
		福井市	勝山市	坂井市	
19,810人	14,879人	4,931人	2,454人	1,533人	193人
100.0%	75.1%	24.9%	12.4%	7.7%	1.0%

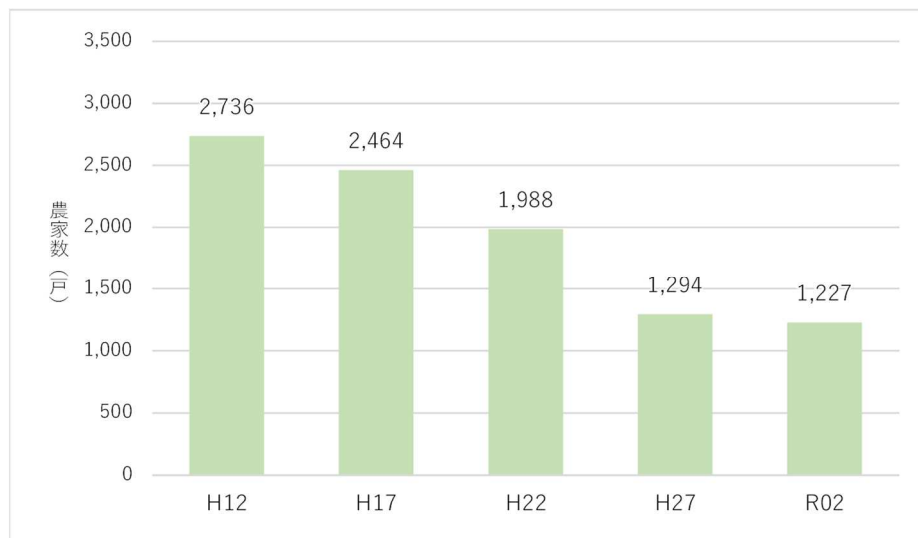
出典：国勢調査（令和2年）

2-1-6 産業・経済

(1) 農業

- 令和2年(2020年)の農家数は1,227戸となっており、平成12年(2000年)からの20年間で1,509戸(55.1%)の大幅な減少をしました。

【農林業センサス－農家数の推移】

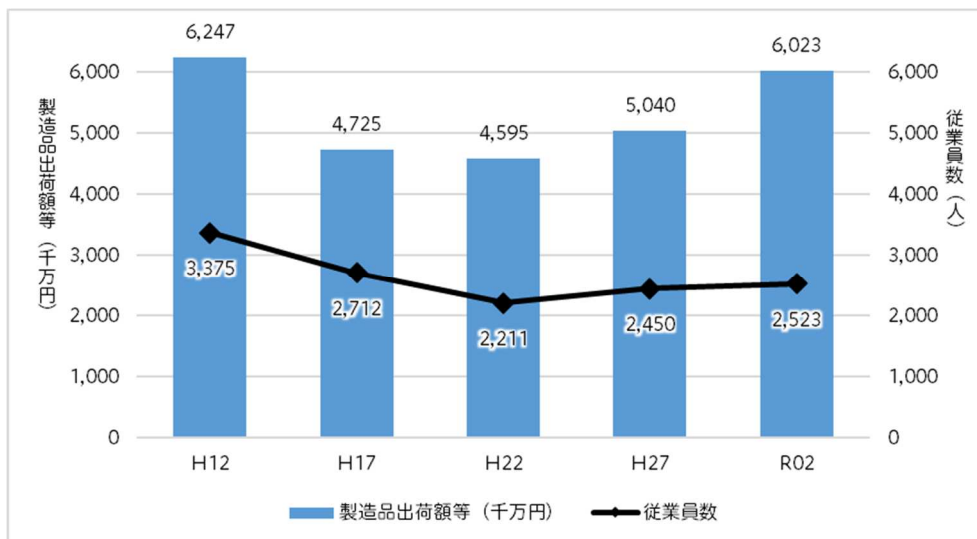


出典：農林業センサス

(2) 工業

- 令和2年(2020年)の製造業の従業者数は2,523人となっています。平成22年(2010年)までは減少傾向にありましたが、以降は増加傾向に転じています。
- 令和2年(2020年)の製造品出荷額等は約602億円となっており、平成22年(2010年)以降、増加傾向に転じ順調に回復しています。

【工業統計調査－製造品出荷額等・従業者数の推移】

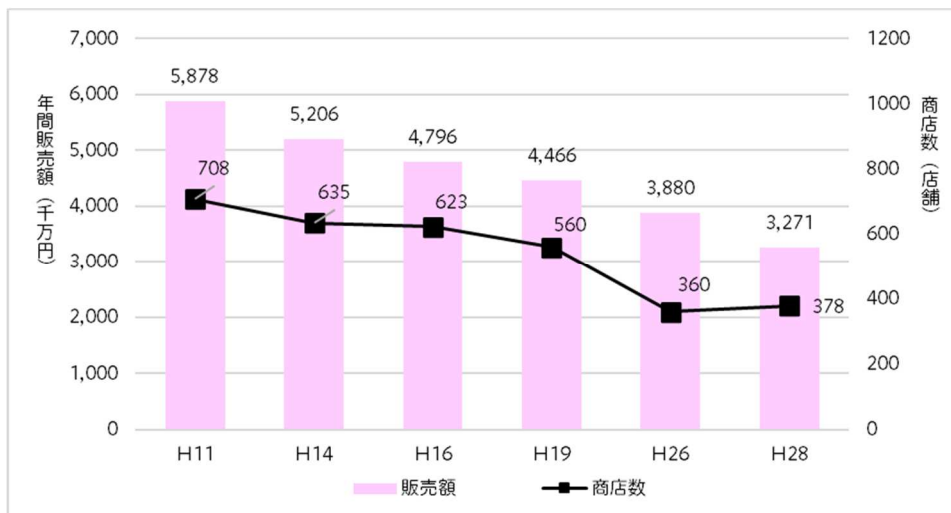


出典：工業統計調査（ただし H27 は H28 経済センサス活動調査）

(3) 商業

- 平成28年(2016年)の商店数は378店舗となっており、平成11年(1999年)当時の6割以下となっています。
- 平成28年(2016年)の販売額は約327億円となっており、こちらも平成11年(1999年)当時の約588億円から約261億円減少し、6割以下の規模に縮小しています。

【商業統計調査－年間販売額・商店数の推移】

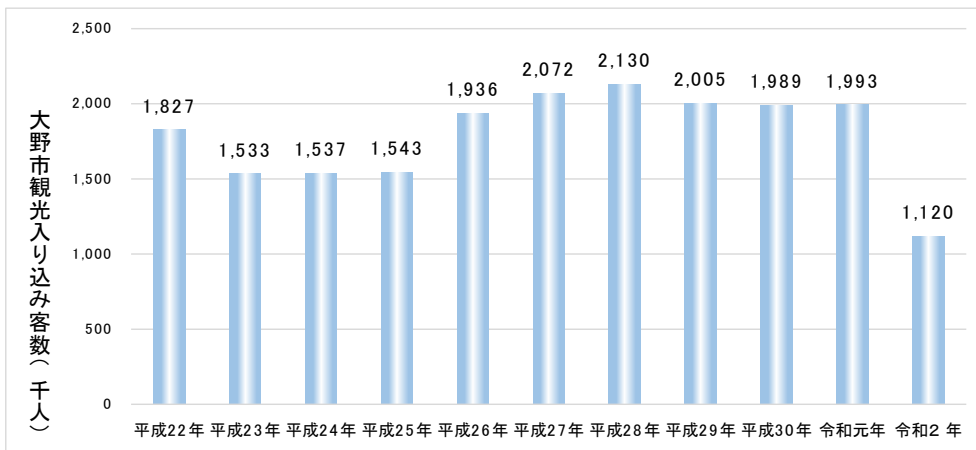


出典：商業統計調査（ただし H28 は経済センサス活動調査）

2-1-7 観光

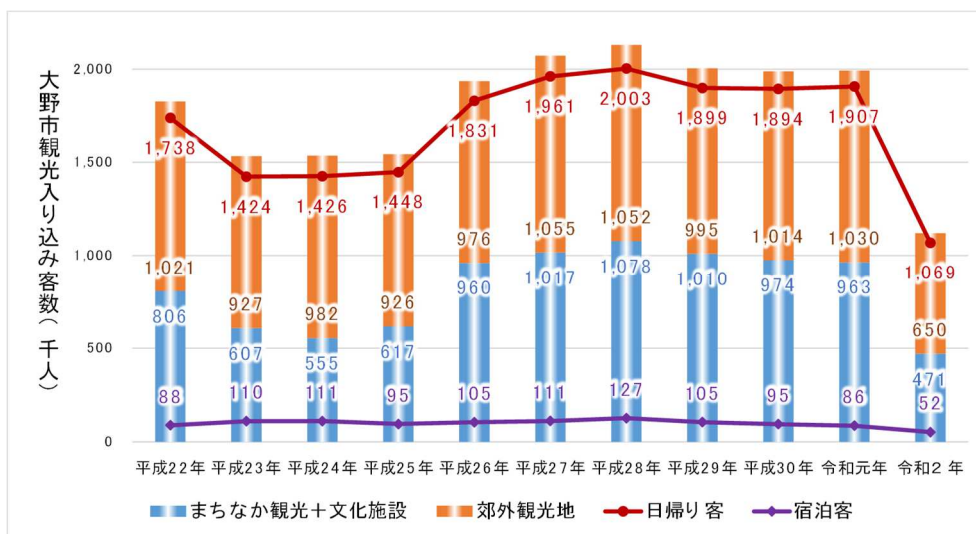
- 令和2年（2020年）の観光入り込み客数は112万人となっており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、前年よりも大幅に減少しています。令和元年以前は、平成28年（2016年）に213万人にまで増加したのち、200万人前後で横ばい状態になっています。
- 観光客のほとんどを日帰り客が占めており、宿泊客はわずかで近年は減少傾向にあります。
- まちなかへの入り込み客と郊外への入り込み客はおおむね同水準となっており、平成28年（2016年）から令和元年（2019年）まではまちなか観光の入り込み客が微減傾向にあります。

【観光客入込数の推移】



出典：観光交流課

【観光客入込数の推移内訳】

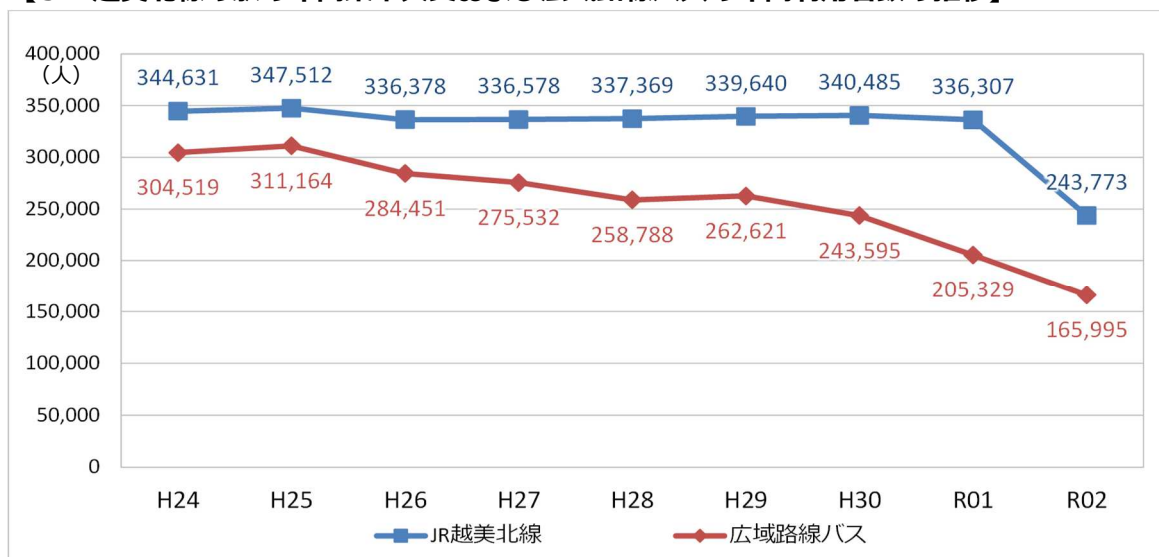


出典：観光交流課

2-1-8 公共交通ネットワーク

- JR越美北線の駅の年間乗車人員は、令和元年度まではほぼ横ばいで推移していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、減少しています。
- 広域路線バスは、減少傾向となっており、平成30年以降は減少幅が大きくなっています。

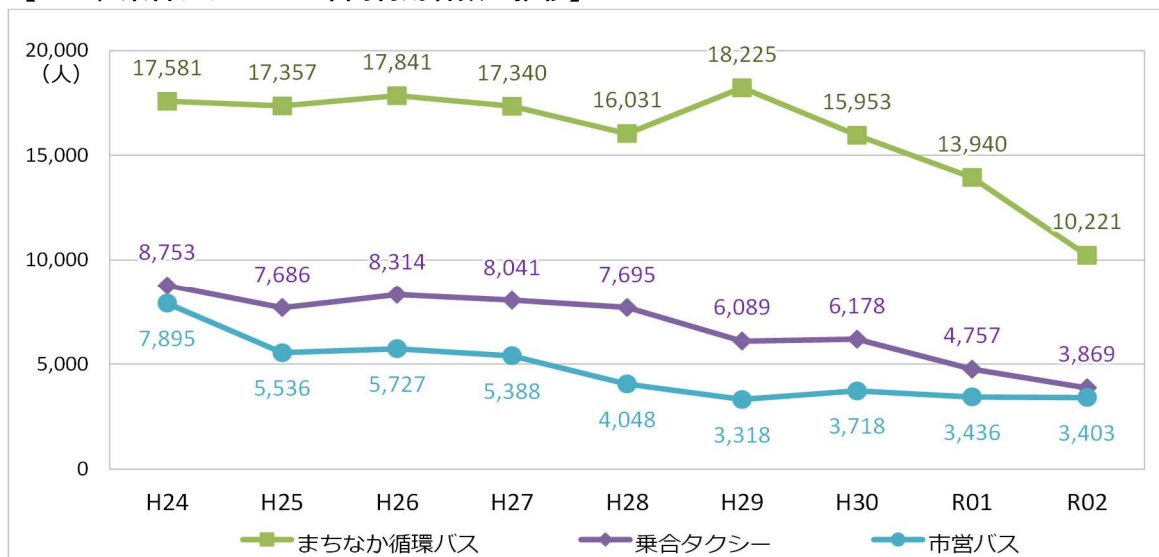
【JR越美北線の駅の年間乗車人員および広域路線バスの年間利用者数の推移】



出典：大野市調べ（年間乗車人員は福井駅～九頭竜湖駅。広域路線バスの年度期は前年10月から当年9月まで。）

- まちなか循環バス（ゆうゆうバス）の年間利用者は、平成29年度に大きく回復した後、平成30年度から令和2年度にかけて減少しました。
- 乗合タクシーおよび市営バスの年間利用者数は、平成30年度にやや回復しましたが、令和元年度から減少傾向に戻っています。

【バス、乗合タクシーの年間利用者数の推移】



出典：大野市調べ